

タイ後期中等教育における選択科目としての日本語教育 ——高校生を対象とした第二言語不安調査からの一考察——

下村 朱有美

1. はじめに

1981年にタイ後期中等教育の第二外国語の一つとして日本語が加えられて以来、タイの中等教育機関で日本語を学習する生徒の数は増加傾向にある（国際交流基金 2006）。そのような傾向の中で、より良い日本語学習環境作りのために教師研修や教材の開発など多くの試みが行われている。後期中等教育機関の日本語クラスは①第二外国語として、②選択科目として、③活動としての三つの開講の形があるとされている（野畑・ガムチャントコーン 2006）が、高校生用として開発された教材やこれまで行われてきた研究は①のように第二外国語として日本語クラスを開講している機関の学習者や教師を対象としているものが多く見られるものの、②や③における日本語学習者や教師を対象としたものは①ほど充実していないのが現状である。

しかし、後期中等教育機関で日本語を学ぶ高校生が多くの可能性を秘めており、高校生としての多感な時期を日本語の学習時間に割いているのはどの教育機関でも同じであることは言うまでもなく、その教育的なインパクトを考えると②や③に関してもさらに研究が進められ、環境が整備されるべきである。そこで本稿では、選択科目として日本語クラスが開講されている後期中等教育機関の日本語学習者を対象に実施した質問紙調査の結果をもとに、日本語学習者がどのような意識を持っているのかを知り、よりよい学習環境作りのためにどのようなことがなされるべきかを考察したい。また、質問紙の中心として第二言語不安尺度（元田 2005）を用いることで、学習者がこれまで意識してこなかった不安部分をも明らかにしたい。

2. 先行研究

タイ中等教育機関の日本語教育に関する研究はこれまでも数多く行われている。野畑・ガムチャントコーン（2006）では中等学校日本語教員養成講座について報告がなされ、追跡調査によってタイ全土の日本語クラスの現状が述べられている。また、中等教育機関を対象に行った調査としては、古川・湯山（1999）、村野（2000）、高・長坂（2000）、花井（2001）、チョンスッチャリットタム（2004）、鈴木（2007）等があり、教材やシラバス作成や日本人教師・アシスタント、日本人との交流活動などについて研究されている。

また、今回質問紙の中心部として使用する第二言語不安については元田（2005）で詳しく述べられている。元田（2005）は、「第二言語不安」を「第二言語の学習や使用、習得に特定の関わる不安や心配と、それによって引き起こされる緊張や焦り」と定義しており、本稿もこれに従う

ものとする。詳しい第二言語不安研究の背景については野口（2000）、元田（2005）等に詳しい。

3. 研究方法

本稿では、タイの後期中等教育機関で選択教科として日本語を学習する高校生を対象に質問紙調査を行い、その結果をもとに高校生が日本語学習について第二言語不安の観点からどのような意識を持っているのかを知り、よりよい学習環境づくりのためにどのようなアプローチがなされるべきかについて考察する。

今回の調査で対象としたのは、バンコクの中等教育機関である「Satri Witthaya 2」校（以下、S.W.2 校とする）の後期課程で日本語を学ぶ高校 1～3 年の生徒である。日本語クラスは特定のコースに属する生徒のみが選択科目として履修することができ、2006 年 11 月現在、履修生徒数は高校 1 年生から 3 年生まで計 132 人であった。1 週間に 1 回、連続 2 コマ（1 コマ 50 分）が日本語に充てられており、ほとんどの学習者がゼロ初級から日本語の学習を開始する。日本語の教科は選択科目であるため、学期間には日本語から他教科へと選択を変更する生徒もいる。その結果、1 年生では 1 クラス約 50 人中 30 人程度が日本語を選択するが、学年が上がるにつれて履修者数は減少し、結果的に 3 年生になると日本語履修者は 1 クラス 10 人程度となる。教科書は国際交流基金『日本語 あきこと友だち』（紀伊國屋書店（タイランド））を使用しており、3 年生までに 6 分冊中 3 分冊までを学習する。授業は全てタイ人日本語教師と日本人アシスタントによるティーム・ティーチング形式がとられている。なお、タイ人日本語教師は国際交流基金バンコク日本文化センターの中等学校現職教員日本語教師新規養成講座を 1996 年に修了し、同年に S.W.2 校で日本語科目が開設された。日本人アシスタントは 1997 年より受け入れられており、筆者は 9 人目のアシスタントとして 2006 年 5 月より 2007 年 3 月まで同校に常駐した。

以上のように選択科目として日本語クラスが開設されている S.W.2 校にて質問紙調査を行った。本研究に使用する質問紙は、2 部構成をとることとした。前半部には日本語を学習すること、日本人アシスタント、日本人との交流活動などについての記述回答形式の質問を設けた。これらの質問項目の設定についてはこれまで各地で行われてきたニーズ調査やタイ国内で行われた学習意識調査を参考にしたが、独自に項目を設けた箇所もある。後半部では日本語教室内の活動について元田（2005）の JLAS（Japanese Language Anxiety Scale、日本語不安尺度）内の教室内第二言語不安尺度を用いることで学習者がそれまで意識していなかった不安要素を導き出すことを目的とした。JLAS の第二言語不安の教室内不安から、5 項目を除いた 18 項目について「全くあてはまらない (1)」から「非常によくあてはまる (6)」までの 6 段階から 1 つ選んでもらった。除いた 5 項目は視聴覚教材やロールプレイ、口頭発表、ディスカッションに関する項目であるが、調査対象とした S.W.2 校の授業ではそれらの質問項目に該当する活動が行われていないため今回の調査では質問項目から除くことにした。さらに、最後に教室内の不安について自由に記述のできる

スペースを設けた。

このように前半部と後半部に分けることによって、学習者の意識を2つの側面から明らかにすることをねらいとした。つまり、前半部の自由記述により、学習者の意識部分の表出を、後半部の第二言語不安調査により、無意識部分の表出を目的とした。また、このような順列をとることにより、無意識部分の表出に記述部分が影響を受けないよう配慮したつもりである。

さらに、質問紙の最後には「このアンケートの回答について、インタビューをするかもしれません。答えても良いという人は、下に名前を書いてください」として、記名欄を設けた。なお、質問紙は日本語で作成した後、タイ語母語話者に翻訳を依頼した。質問項目は日本語版のみ稿末資料とした。

上記の過程を経て作成した質問紙に、事前調査として本稿の調査対象である S.W.2 校の生徒 3 人に回答を依頼した。協力を依頼した 3 人は、S.W.2 校の生徒ではあるが日本語クラスを履修していない。しかし、それぞれ S.W.2 校外の教育機関で日本語学習歴があり、日本語能力試験 3 級程度の日本語レベルである。また、日本語教室を頻繁に訪れ、筆者とも接触が多く、校内の日本語関連のイベントにも積極的に参加している。それぞれに教室学習経験があり日本語学習の継続は学習者自身に任されているという環境を経験しているため、質問項目についても自己の経験からイメージしやすいのではないかと思い、回答を依頼した。その結果、翻訳したタイ語がわかりにくい部分の訂正を除き、その時点で大きな質問項目の問題点は見られなかったため、タイ語の訂正をわずかに加えた以外は大きな変更は加えなかった。

2006 年 12 月から 2007 年 1 月にかけて質問紙調査を実施した。回答者数の詳細は次の通りである。

表 1 回答者数詳細

学年	1 年生	2 年生	3 年生	全学年
履修者数 (クラス数)	57 人 (2)	48 人 (3)	27 人 (2)	132 人 (7)
回答者数 (回収率)	51 人 (89%)	45 人 (94%)	25 人 (93%)	121 人 (92%)

4. 研究結果及び分析

本稿では第二言語不安という側面から学習者の意識を明らかにすることを目的とするため、日本語の学習目的や環境について問う質問紙の前半部は研究対象としない。質問紙前半部の結果や分析については下村 (2008) で述べている。以下、後半部の結果を中心に分析を進める。

後半部に該当する質問項目 5 に関して、質問紙に記入した学習者全員から全ての項目について有効回答を得ることができた。それぞれの項目について学年毎に平均値を出した。以下に各学年・全学年の平均値を示す。なお、回答は 6 段階 (よくあてはまる場合には 6、全くあてはまらない場合には 1) となっており、より不安を感じている方が最大値である 6 に近づく。

□部は回答者が特に不安を感じている項目（4.51 以上）、■部があまり不安を感じていない項目（2.50 以下）である。

表2 教室内第二言語不安調査結果

質問	平均値	1 年生	2 年生	3 年生	全学年
(1) 教室で日本語を話すとき、ふだん緊張します。		4.30	4.19	4.15	4.21
(2) 指名されそうだとわかると、不安になります。		4.50	3.80	3.54	3.92
(3) 教室で、日本語をまちがえないか心配です。		4.50	3.66	3.40	3.82
(4) 教室で緊張すると、ふだんは知っている日本語が思い出せません。		4.07	4.00	3.84	3.97
(5) 教室で、声に出して日本語を読むとき、緊張します。		3.80	3.22	3.04	3.33
(6) 日本語の授業の速さについていけないとき、不安になります。		5.27	4.88	3.32	4.55
(7) 私の日本語レベルは、他の学生よりも低いのだろうか、と心配になります。		4.40	4.22	3.65	4.11
(8) 日本語の授業で、たくさんのことを勉強しなければならないとき、焦ります。		5.16	4.97	5.19	5.08
(9) 他の学生の前で日本語をまちがえたとき、恥ずかしいです。		3.45	3.00	2.75	3.06
(10) 先生の質問の答えがわからないとき、あせります。		4.41	3.89	3.26	3.86
(11) 日本語の授業の内容が難しくてわからないとき、不安になります。		4.91	4.73	4.17	4.62
(12) 先生が早口で日本語を話すと、不安になります。		4.52	4.22	3.89	4.21
(13) 他の学生が、私の日本語を下手だと思わないか心配です。		2.98	2.55	2.20	2.57
(14) 日本語をまちがえたとき、先生にしかられないか心配です。		2.57	2.42	2.01	2.34
(15) 教室で、私は日本語の学習能力がないのだろうか、と心配になります。		4.00	3.57	3.47	3.66
(16) 急に先生に質問されたとき、緊張します。		4.40	3.91	3.36	3.89
(17) 日本語を話すとき、他の学生に笑われないか心配です。		2.98	2.63	1.93	2.53
(18) 先生が私の日本語をわからないとき、焦ります。		3.35	3.11	3.06	3.16
総平均値		4.06	3.72	3.34	3.72

総平均値（全ての項目の平均値）では最も平均値が高いのが1年生で、より教室活動に不安を

感じているようである。そして、2、3 年生と学年が上がるにつれて平均値は下がってきている。その原因として、教室内で日本語を学習することに慣れていく、または、不安の高い生徒は日本語の学習を辞めてしまう、といったことが考えられる。

平均値が全体的に高い項目として (6)「日本語の授業の速さについていけないとき、不安になります」、(8)「日本語の授業で、たくさんのことを勉強しなければならないとき、焦ります」、(11)「日本語の授業の内容が難しくてわからないとき、不安になります」が挙がっていた。逆に、平均値が低いのは (14)「日本語をまちがえたとき、先生にしかられないか心配です」が挙がっているが、他にも、(5)「教室で、声に出して日本語を読むとき、緊張します」、(9)「他の学生の前で日本語をまちがえたとき、恥ずかしいです」、(13)「他の学生が、私の日本語を下手だと思わないか心配です」、(17)「日本語を話すとき、他の学生に笑われないか心配です」、(18)「先生が私の日本語をわからないとき、焦ります」の値は比較的低かった。これらの項目は学習する仲間（クラスメイト）や教師に関係するものである。

この言語不安に関する質問の後、他に日本語を学習することについて不安があるのはどのような場合かを記入してもらったが、「覚えられない」「先生が早口でついていけない」「テストができない」という記述が多かった。「覚えられない」ということについては質問項目の (4)、もしくは (8) に該当する回答であると思われるが、この質問紙全体を通じて「覚えられない」ことに関して生徒は不安を強く抱いているようである。また、「先生が早口でついていけない」という記述は、質問項目の (12) に該当するものと思われる。さらに、テストに関する不安についての記述も見られた。

さらに、後半部それぞれの質問項目について相関関係を分析したところ、一部を除きそれぞれの項目で相関関係が見られた（稿末資料 2）。その中でも不安に関する質問項目 (2) と (3)、(2) と (16)、(6) と (11)、(7) と (15)、(9) と (17)、(13) と (17)、(14) と (17) については他項目より強い相関 ($r > 0.6$) が見られた。これらの項目は強い相関関係があるが必ずしも因果関係があるとは限らない。しかし、調査対象とした学習者の不安のバランスや不安軽減へのアプローチを考える上で重要なヒントとなり得る。詳しくは次節で述べることとする。

5. 考察及び今後の課題

今回の調査ではタイの中等教育機関で選択科目として日本語を学ぶ S.W.2 校の生徒を対象に調査を行った。特に学習者が日本語クラスの中で感じている第二言語不安に焦点を当て、学年が上がるにつれて不安が高くなること、授業の速さと内容量、難易度に関する不安が比較的高いこと、クラスメイトや教師に対する不安が低いこと等が明らかになった。

学年が上がるにつれて不安の値が高くなり、学習者数が減少していることから、不安を低くすることで学習者が望む学習環境につながると推測される。授業の速さと学習内容の量、難易度に

関しては、より選択科目としての特徴に注目すべきであろう。日本語クラスが選択科目としての開講である場合、実際の運用に直接結び付けることには限界があるが、疑問点にぶつかったときに自力で解決できるような手段を学べるようにしたり、既習内容で「使える」という実感や満足感を覚えるような活動を取り入れることも必要ではないだろうか。卒業後、もしくは日本語クラスの履修を辞めた後も、日本語を学んだという経験そのものが、以後の生活の中で何かしらヒントを与えられるような活動を検討する必要があるだろう。また、選択科目という特性上、他教科とのバランスも十分に吟味されるべきである。特に、大学への進学率が高い機関では学年が上がるにつれて大学入試科目として受験する他教科に比重が置かれる傾向にあるといったことにも留意すべきではないだろうか。

第二言語不安で学習する仲間（クラスメイト）への不安が低いことにも注目して、互いに学びあえる、教えあえるようなグループワークなども取り入れてはどうだろうか。クラスにグループ活動と全体での活動を取り入れることで緩急のついた授業も期待できるであろうし、個々の発話量の増加も期待できる。しかしながら、グループワークを取り入れる際には理解の早い学生が常に優位に立つといった構図ができないように、さらには特定のグループが授業内容から大きく脱線することのないように常に注意を払う必要がある。

教師に対する不安に着目し、教師との接触機会を増やし相互理解を深めることでさらに不安軽減につながると仮定すると、フィードバックシートや宿題のスペース、個別の口頭テストの時間などを利用することで、生徒一人一人と意思疎通を図るようにしたり、様々なアクティビティを通して教室内ではできない交流を図ることもできるだろう。アクティビティとしては、新任教師向けに街を案内するなどの新企画の立ち上げも考えられるが、従来学校にあった学校行事に日本人教師が積極的に参加することで生徒と接する機会になる。日本人教師にとっては相互理解を深める上で日本語教育及びその周辺に関する知識はもちろんのこと、高校生ならではの事情により着目した知識も求められるのではないだろうか。

また、第二言語不安調査によって得られた各不安の強さに関する相関関係からも、不安軽減へのアプローチを考察することも可能ではないだろうか。例えば、強い相関の見られた(6)「日本語の授業の速さについていけないとき、不安になります」と(11)「日本語の授業の内容が難しくわからないとき、不安になります」に関して、「授業の進度が速い」ことが「内容が難しい」と感じさせる原因だと考えることはできないだろうか。必ずしも直接的な影響があるとは言いきれないものの、強い相関関係から「授業の進度」と「内容の難易度」に何かしらの関係があることが予想される。そのどちらかの改善に努めることでより不安が軽減され、学習者が求める日本語の学習環境作りに貢献できると考察される。

今回は選択科目として日本語を開講している S.W.2 校を対象としたが、同校のように選択科目として開講している学校に日本人アシスタントが常駐しているケースは稀であり、タイの中等教

育機関で教える日本人教師・アシスタントは第二外国語として開講している高校で教えていることが多い。また、類似した状況下にある教育機関であっても各々の教育機関の特性上、学習者の抱く第二言語不安は異なっていることが予想される。様々な要因を踏まえ、多様な状況があることを考慮した上でそれぞれに対応できるシステムの整備が望まれる。

本稿では完全にタイの後期中等教育における日本語学習者の意識が明らかになったわけではなく、質的にも量的にも全体のわずかな部分に過ぎない。反省点として、十分なフォローアップインタビューが行えなかったこと、浅く広い意見しか聞けなかったことなどが挙げられる。また、質問紙やインタビューを通しての意識調査で得られる学習者の思いがどこまで真意に近いものなのかは知る術がない。今回、第二言語不安に関する質問項目として元田（2005）の JLAS を用いたが、より間接的に問う形式の質問や具体的なシチュエーションを示したりする方法で不安を問うことで得られる結果が異なってくる可能性は大いにある。学習者の置かれている状況によって、不安の強弱だけでなく質も異なることにも注意を向ける必要がある。さらに、数値だけで不安を測定することには危険性も孕んでおり、第二言語不安の研究が今後なされる中で多様な観点から不安について考察できるような質問項目の設定や研究手法が求められるだろう。

しかしながら、この調査をしてタイの高校で選択教科として日本語を学習している学習者の意識がわずかではあるが明らかになったのではないだろうか。よりよい日本語学習環境作りのために、日本語学習の中心にいる学習者の声に耳を傾けることは勿論、周囲にいるタイ人の日本語教師、日本人教師、該当校の職員や他の教科の教師、学習者の家族など、周囲の意見をさらに広く深く聞いていく必要がある。

今後、タイ各地で多様な形態で日本語クラスが開設され、研究がなされる中で何かの参考になれば、もしくは選択科目として日本語クラスを開講している中等教育機関について情報を提供できたのであれば幸いである。

謝辞

本稿の調査・執筆にあたり、国際交流基金バンコク日本文化センターの八田直美先生（現、国際交流基金日本語国際センター）、大阪大学の真嶋潤子先生には貴重なご意見をいただきました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。また、調査に協力してくださった Satri Witthaya 2 校の生徒の皆さん、Sayumporn Sirivivatpaitoon 先生に深謝いたします。誠にありがとうございました。

参考文献

高偉建・長坂水晶（2000）「アシスタントを導入したプロジェクトワークータイ中等学校日本語教師研修での実践―」『日本語国際センター紀要』第 10 号、国際交流基金日本語国際センター、

pp.51-67

国際交流基金（2004）『日本語 あきこと友だち』1、紀伊國屋書店（タイランド）

国際交流基金（2006）「日本語教育国別情報 タイ：2006 年海外日本語教育機関調査結果」

<http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/2006/thailand.html>2008 年 1 月 14 日

下村朱有美（2008）『タイ王国の後期中等教育における日本語教育—高等学校における質問紙調査から—』大阪大学外国語学部 2007 年度卒業論文

鈴木由美子（2007）「タイ北部中等教育機関におけるプロジェクトワーク実践報告—ユパラートウィッタヤライ校と京都府立東宇治高等学校との文化交流プログラムから—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第 4 号、国際交流基金バンコク日本文化センター、pp.131-140

チョンスツチャリットタム・プラニー（2004）「タイ国後期中等教育のための日本語シラバス」『世界の日本語教育 日本語教育事情報告編』第 7 号、国際交流基金、pp.71-82

野口雅司（2000）「第二言語学習における言語不安」『神戸国際大学紀要』第 59 号、神戸国際大学学術研究会、pp.93-105

野畑理佳、ガムチャンタコーン・ウィパー（2006）「タイにおける中等学校日本語教員養成講座の概要と追跡調査報告 タイ後期中等教育における日本語クラスの現状」『世界の日本語教育 日本語教育論集』第 16 号、国際交流基金、pp.169-187

花井慎行（2001）「タイ国の中等教育における日本人日本語教師の現状と課題 教師・学生へのアンケートの結果から」『国際交流基金バンコク日本語センター紀要』第 4 号、国際交流基金バンコク日本語センター、pp.3-15

古川和人・湯山佳代（1999）「後期中等日本語教育の量的拡大傾向に関する事例研究：タイ王国における経済・社会的背景との関連性についての一考察」『世界の日本語教育 日本語教育事情報告編』第 5 号、国際交流基金、pp.203-215

村野良子（2000）「タイ後期中等教育の日本語教育における日本語ボランティアの役割と意義」『ICU 日本語教育研究センター紀要』第 9 号、国際基督教大学日本語教育研究センター、1-8

元田静（2005）『第二言語不安の理論と実態』溪水社

資料 1 質問紙の全質問項目（日本語版）

0. クラス

- 1.(1) 日本語を勉強している理由、目的は何ですか。
- 1.(2) 日本語の勉強をしていて、楽しいと思うのはどんなときですか。
- 1.(3) 日本語の勉強をやめたいと思うのは、どんなときですか。

- 1.(4) 高校を卒業しても日本語の勉強を続けたいと思いますか。また、それはなぜですか。
 続けたい ・ 続けたくない ・ わからない
- 2.(1) 日本人のアシスタントについてどう思いますか。次の7つの中から一つ選んでください。
 また、その理由も書いてください。
 ①とてもいい/②いい/③少しいい/④あまりよくない/⑤悪い/⑥とても悪い/⑦わからない
- 2.(2) これから日本人のアシスタントと、どのようなことがしたいですか。
- 2.(3) 日本人のアシスタントとして、これからどのような人に来て欲しいですか。
 また、それはなぜですか。
- 3.(1) どんな日本人と知り合いになりたいですか。
- 3.(2) 日本人とどのような交流活動がしたいですか。
- 4.(1) 今まで、この学校以外の場所で日本語を勉強したことがありますか。
 もし勉強したことがあって、差支えがなければどこで勉強したのか、いつからいつまで勉強したのかを教えてください。
- 4.(2) 学校の外で日本人や日本語と接する機会がありますか。あるとしたら、それはどのような機会ですか。
5. 教室であなたが日本語を勉強している場面を思い浮かべてください。下の文を読んで、あてはまる数字に1つ○をしてください。
 1=全くあてはまらない/2=あてはまらない/3=あまりあてはまらない
 /4=すこしあてはまる/5=あてはまる/6=非常によくあてはまる
- (1) 教室で日本語を話すとき、ふだん緊張します。
- (2) 指名されそうだとわかると、不安になります。
- (3) 教室で、日本語をまちがえないか心配です。
- (4) 教室で緊張すると、ふだんは知っている日本語が思い出せません。
- (5) 教室で、声に出して日本語を読むとき、緊張します。
- (6) 日本語の授業の速さについていけないとき、不安になります。
- (7) 私の日本語レベルは、他の学生よりも低いのだろうか、と心配になります。
- (8) 日本語の授業で、たくさんのことを勉強しなければならないとき、焦ります。
- (9) 他の学生の前で日本語をまちがえたとき、恥ずかしいです。
- (10) 先生の質問の答えがわからないとき、あせります。
- (11) 日本語の授業の内容が難しくてわからないとき、不安になります。
- (12) 先生が早口で日本語を話すと、不安になります。
- (13) 他の学生が、私の日本語を下手だと思わないか心配です。

- (14) 日本語をまちがえたとき、先生にしかられないか心配です。
- (15) 教室で、私は日本語の学習能力がないのだろうか、と心配になります。
- (16) 急に先生に質問されたとき、緊張します。
- (17) 日本語を話すとき、他の学生に笑われないか心配です。
- (18) 先生が私の日本語をわからないとき、焦ります。
- ・教室内の活動でこれ以外に不安に感じたり緊張したりすることがあれば書いてください。
 - ・このアンケートの回答について、インタビューをするかもしれません。答えてもいいという人は、名前を書いてください。

紙面の都合上回答欄は省略し、選択肢を設けたものは選択肢のみ示した。

資料 2 教室内日本語不安相関

r=	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)
5(1)	.47	.39	.21	.52	.39	.45	.31	.26	.38	.37	.29	.23	.32	.43	.46	.26	.25
5(2)		.68*	.44	.51	.41	.43	.13	.38	.57	.34	.38	.36	.45	.52	.62*	.44	.30
5(3)			.30	.48	.34	.44	.10	.56	.56	.34	.38	.49	.50	.56	.49	.50	.24
5(4)				.44	.31	.26	.13	.22	.41	.33	.27	.20	.34	.36	.41	.22	.29
5(5)					.44	.45	.21	.44	.43	.31	.31	.31	.45	.39	.50	.37	.34
5(6)						.51	.14	.27	.49	.64*	.46	.26	.28	.36	.47	.24	.25
5(7)							.35	.53	.58	.56	.37	.46	.40	.62*	.42	.44	.33
5(8)								.14	.11	.36	.23	.04	.03	.23	.19	-.02	.08
5(9)									.59	.35	.30	.53	.56	.45	.38	.66*	.45
5(10)										.53	.50	.53	.55	.54	.52	.54	.44
5(11)											.50	.35	.29	.45	.44	.25	.32
5(12)												.37	.32	.33	.49	.36	.37
5(13)													.59	.53	.38	.66*	.36
5(14)														.56	.45	.64*	.44
5(15)															.53	.51	.26
5(16)																.46	.46
5(17)																	.53

* $r > 0.6$